カルデアの牧人（まきびと）　～校長だより～　No.34

３学期終業式

～動き出すまでに助走やタメが必要～

2026.3.24 校長

　皆さんこんにちは。学年を締めくくる3学期の終業式を迎えました。学年初めの4月の自分と比較して、「できる」が増えてきたことを実感していますか。

　1年生、2年生の探究発表や発表会後の感想を見ると、「挑戦」という言葉がたくさん見られました。「応援される人になりたい」という言葉も多かったと感じます。意識して学校生活を送ってくれているなと感じました。

「できる」ようになったこととは、

部活動、コンテストなどで表彰を受けた、

検定に合格した、通知表の成績が上がった、

打率や決定率、タイムや回数が上がったなど

数値として目に見えるわかりやすいものがあります。

また、

生活リズムが整った　勉強に集中するようになった

人前で発表することが苦ではなくなった

友達が増えた

これまで後回しにしていたけど、将来のことを具体的に考えるようになったなど

目に見えづらく気づきにくいものがあると思います。

締めくくりの今日ですので、気づきにくいものも含めて改めて自分自身を振り返ってみてください。きっと大きな変化に気づくと思います。

皆さんのような若い時は、1　年間で行動も考えも大きく変化します。年配者と比較して変化が大きいのはなぜでしょうか。

昆虫などは生まれたら誰かに教わることなく、葉っぱを食べたり、人間がつかもうとすると危険を察知して逃げていきます。これを本能と言います。

しかし、哺乳類は違います。

哺乳類は生まれてしばらくは母親の乳を飲んで生活します。乳離れができてもすぐに自分で餌をとったり危険を回避することはできません。成体になるまで母親や仲間に守られながら、教わり経験を積み重ねて、それらの方法を身につけます。

人間も哺乳類ですので、同じ過程をたどります。学習をして失敗も含めて様々な経験を積んで「できること」を増やして一人前になるのです。

さらに人間は体のわりに脳が大きく、脳が成人の大きさまで成長するのに16歳ごろまでかかるそうです。

16歳で大人の大きさの脳となるのですが、当然ながら知識や経験はその後も蓄積されます。この知識や経験の蓄積の豊かさが、多様な思考を可能とし、様々な行動のもとになるというのです。
16歳、17歳である皆さんは、脳は大きく成長したのですから、そこへ知識と経験をどんどん蓄積している最中です。新しい経験や知識を得ると思考も行動も変わるのですから、若い時は変化・成長が大きいというわけです。

自分を取り巻く環境が大きく変わると、それに対応するために様々な新しい経験をすることになります。

そう考えると、親元を離れ共同下宿で自立した生活をしている11名の1年生の皆さん。もうこれだけで、「できる」が増えた、成長したといえるでしょう。

11名に限らず、1年生は高校生活1年目ですから、環境が変わり、すべてが新しい経験であったと思います。

そして、この後、話をしてくれますが、2年3組の山内双葉さん。鹿児島県からこの大東へやってきてくれました。彼女も大きな挑戦をした1年でした。驚いたことがたくさんあったようです。出雲弁のこと、皆さんが地域の方へ普通に挨拶すること、地域の大人が積極的にかかわってくれること、について話してくれました。皆さんの多くはこの地域で生まれ育ってきたのですから、これが当たり前と思っているでしょう。山内さんから見ると新鮮で魅力的に感じたとのことです。外から眺めないと良さに気づけないのかもしれません。

皆さん一人ひとりの変化・成長も自身では気づけないかもしれませんが、外から見ると着実に変わってきています。

さて、次の1年に向かってどんな挑戦を考えていますか。脳が大きい人間は随分先のことまで予想できます。「こうなっていたい自分」を思い浮かべ、逆算して今やるべきことを考えてみてください。

動き出すまでに助走やタメが必要です。

例えば、水鳥が水面から飛び立つのに、水面をバタバタ走ります。これが助走です。

人間でもジャンプするときに体を深く沈めます。これがタメです。

次の学年が始まる4月に、これを目標に頑張りたいと思うなら、これからの2週間は「タメ」「助走」の期間です。心も行動も次の学年に向けて動き出しましょう。

成功の反対は失敗ではなく、何もやらないことです。自分の可能性の芽を摘んでしまうのか、花を咲かせるのか、本気の1年の始まりに向けて助走をはじめてみませんか。

では 4月 元気な姿で新学年を迎えましょう。